

令和2年度（2020年度）

京都市立芸術大学 美術学部

# 入学試験問題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

# 目 次

描写	1
描写モチーフ（画像）	2
色彩	3
立体	4
立体解答用材料（画像）	7
小論文	8
出題の意図，評価のポイント，受験生へのメッセージ （描写・色彩・立体・小論文）	12

## 2020年度 実技試験問題

科目 描写

時間 9時00分～13時00分

与えられたコーラ、紙ふうせん、手ぬぐいを台紙上に配置し、  
鉛筆で描写しなさい。

### ●条件

1. 与えられたすべての対象物を描写すること。
2. 対象物は切る、破く、栓を開けるなど、加工をしてはいけない。
3. 紙ふうせんは、膨らましても、膨らまさなくてもよい。

### 【支給されるもの】

コーラ1本、紙ふうせん1個、手ぬぐい1枚  
解答用紙1枚、台紙1枚、カラーカード1枚

### 【使用してよいもの】

カルトン(56cm×40cm以上)、カルトン用クリップ、鉛筆(色鉛筆は除く)、  
消しゴム(練り消しゴムを含む)、羽ぼうき(又はダスティングブラシ)、  
カッターナイフ(鉛筆削り用)

### 【注意】

1. 解答(作業)は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
2. 忘れた用具の貸し出しはしません。
3. 試験終了15分前に、指示に従いカラーカードを解答作品に貼りつけること。
4. 解答用紙は縦横自由です。どちらを表にしてもかまいません。
5. 解答用紙と台紙は同じものです。どちらを解答用紙にしてもかまいません。

【描写：モチーフ】



## 2020年度 実技試験問題

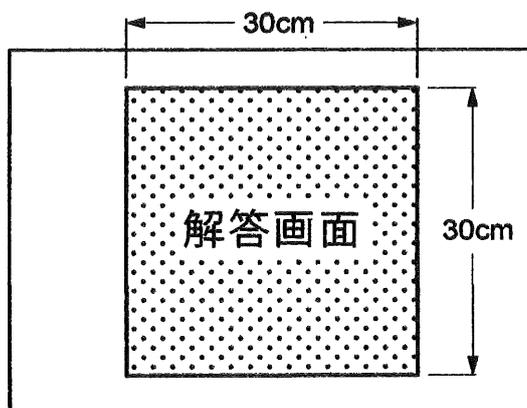
科目 色彩

時間 14時30分～17時30分

テーマ「皺(しわ)」  
与えられた紙(A3上質紙)に、皺を寄せて観察し、色彩で表現しなさい。

### ●条件

1. 解答用紙は、横画面とし、表裏どちらを使っても良い。
2. 下図に示すように、解答用紙の中央に30cm×30cmの正方形を設け、それを解答画面とする。



3. 解答画面は全て彩色すること。
4. 余白部分には彩色しないこと。

### 【支給されるもの】

画用紙大(解答用) 1枚、画用紙小(試し塗り用) 1枚、A4上質紙(構想用) 3枚  
A3上質紙(皺観察用) 2枚、カラーカード1枚

### 【使用してよいもの】

不透明水彩絵具、直定規(60cm以内)、鉛筆、消しゴム(練り消しゴムを含む)、筆、  
筆洗、パレット(又は絵具皿)、カルトン(56cm×40cm)、カルトン用クリップ、  
羽ぼうき(又はダスティングブラシ)、雑巾

### 【注意】

1. 解答(作業)は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
2. 彩色作業はできるだけカルトンの上で行うこと。
3. 忘れた用具の貸し出しはしません。
4. 試験終了15分前に、指示に従いカラーカードを解答作品に貼りつけること。

## 2020年度 実技試験問題

科目 立体

時間 9時00分～12時00分

与えられたケント紙を使って、「空気を支える形」  
を下記の条件に基づいて立体表現しなさい。

### ●条件

1. 解答用材料として、ケント紙を使用しなさい。
2. 解答用材料はすべて使いきらなくてもよい。
3. ケント紙の接着には、木工用速乾接着剤、紙粘着テープのみを使用しなさい。
4. 解答作品は解答用台（35cm×35cm）をはみ出さず、また高さ 35cm からはみ出さないこと。
5. 解答用台は解答作品を固定する以外は一切加工してはいけません。
6. 試験終了後、解答作品に触れてはいけません。各自、移動用カバーをして、解答作品を持ち、体育館まで野外や階段など、約 300 メートルを移動します。  
解答作品は持ち運びに耐えられるように十分な強度を持たせ、解答用台にしっかりと接着、固定すること。
7. カラーカードは、試験終了前に、監督者の指示に従い解答用台の右端に貼ります。

### 【支給されるもの】

解答用材料 : ケント紙 4 枚

解答用台 : 茶色段ボール 1 枚 (縦 35cm×横 35cm)

移動用カバー : 茶色段ボール箱 1 個、カバー固定用テープ 2 枚

制作支援用品 : 灰色ボール紙 1 枚 (作業用)、上質紙 3 枚 (アイデアスケッチ用)

接着材料 : 木工用速乾接着剤 1 本、紙粘着テープ 1 個

カラーカード 1 枚

**【使用してよいもの】**

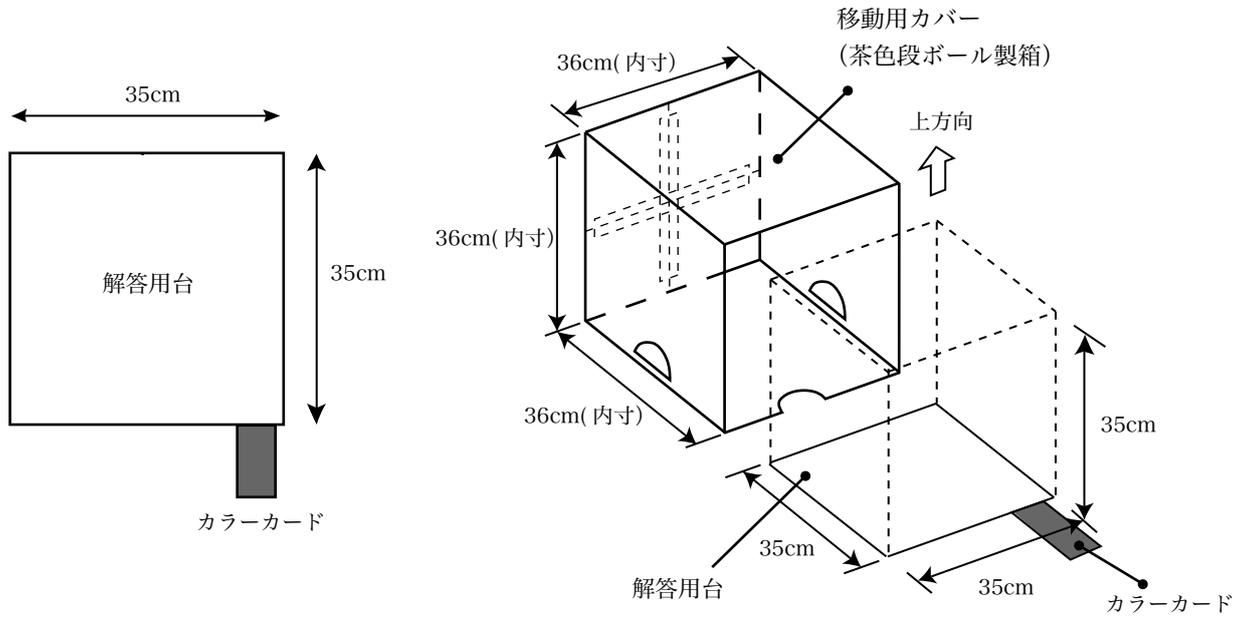
上記支給されるもの及び下記の立体受験用具

鉛筆、消しゴム、カッターナイフ、ボールペン、はさみ、直定規（60cm 以内のもの）、三角定規（30cm 以内のもの一組）、分度器、コンパス、粘土へら、ラジオペンチ、雑巾

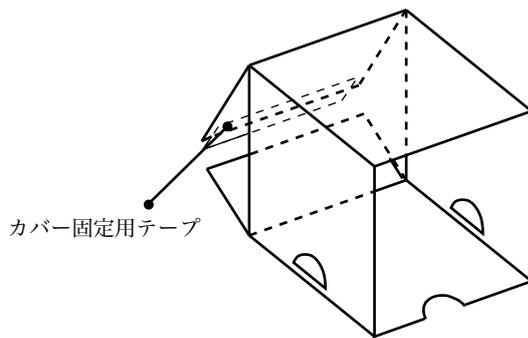
**【注意】**

1. 解答（作業）は着席したまま行い、他の受験生の迷惑とならないようにすること。
2. 忘れた用具の貸し出しはしません。
3. 試験終了15分前に、指示に従いカラーカードを解答作品に貼りつけること。
4. 解答作品には、解答用材料として支給されるもの以外は使用しないこと。
5. 上質紙3枚は、アイデアスケッチ用として使用すること。
6. 試験終了後に移動用カバーを被せます。移動後、体育館において指示に従い外すこと。
7. 作業は支給された灰色ボール紙上で行うこと。
8. 怪我のないように慎重に作業すること。

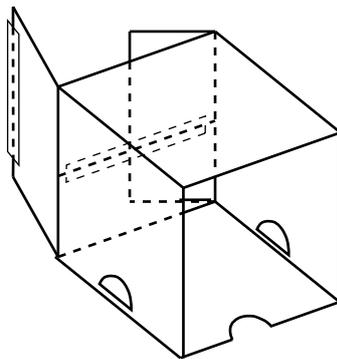
# 移動用カバー 組み立て説明



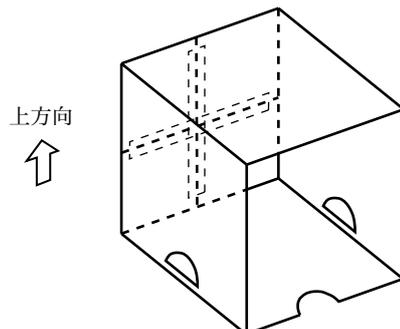
## 移動用カバー (茶色段ボール製箱) 組み立て順序 ① ② ③



- ① フタは上下を先に閉じる  
カバー固定用テープを外側に貼る

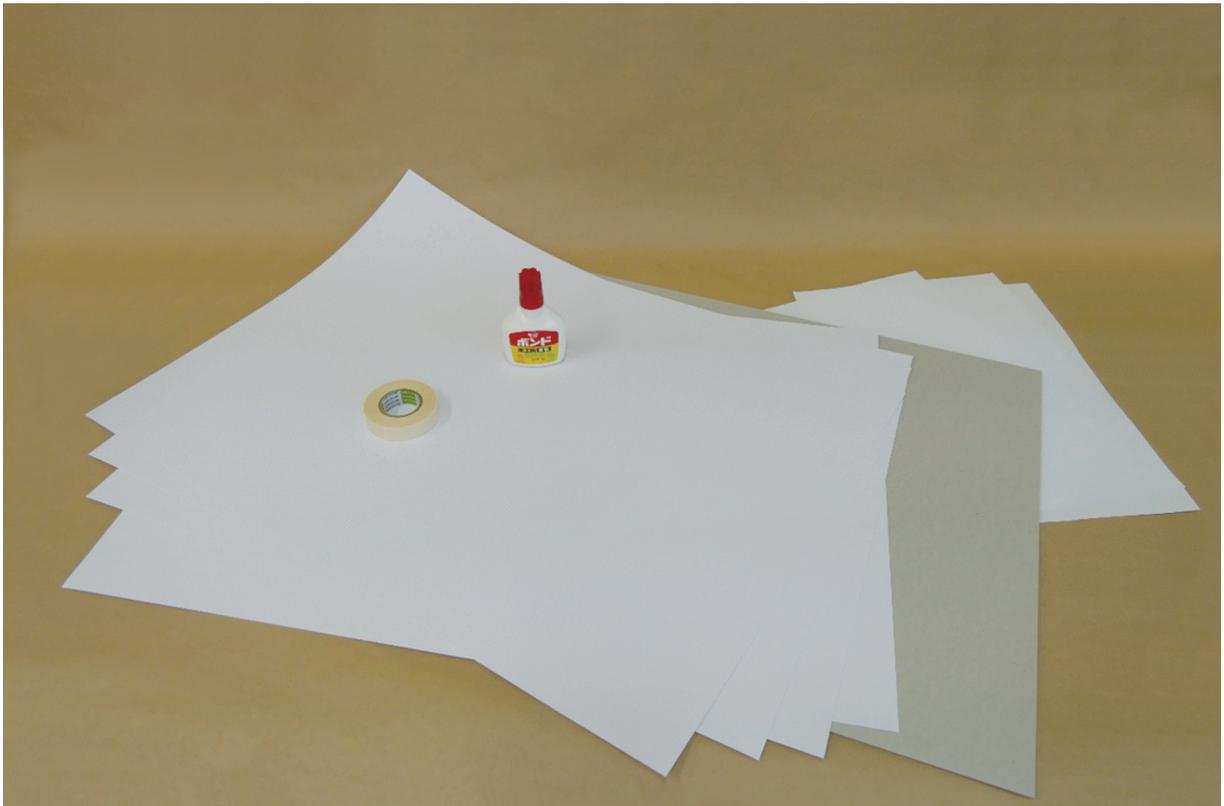


- ② 左右を閉じる  
カバー固定用テープを外側に貼る



- ③ 移動用カバー完成

【立体：解答用材料】



二〇二〇年度 総合芸術学科入学試験問題  
科目 小論文(二〇〇点満点)  
時間 十四時三〇分～十六時三〇分

別紙の問題文は、小坂井敏晶『責任という虚構』(東京大学出版会)から抜き出したものである。  
この文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

設問1. この文章の主旨を二〇〇字以内で要約しなさい。

(80点)

設問2. 芸術作品に対する判断に影響しうる(判断者側の)さまざまな要素・要因について、  
具体的に例を挙げながら自身の考えを論述しなさい。その過程で、問題文内の主張や事例  
を何らかのかたちで取り入れて論述すること。

(120点)

《注意》

- ・ 答案用紙は、表面だけを使用し、裏面は使用しないで下さい。
- ・ 答案用紙は横書きで使用して下さい。
- ・ 最初に配付する答案用紙の両方に、受験番号と氏名を明記してください。答案用紙が足りないときは、試験監督に申し出て下さい。その場合、追加の用紙にも受験番号と氏名を明記して下さい。

自分のことは自分自身が一番よく知っていると言う。しかしこの常識は事実からほど遠く、一種の信仰にすぎない。次のような簡単な実験を考えよう。靴下の展示スタンドをスーパーマーケットに設置し、通りかかる買物客に声をかけ、市場調査という口実の下に商品の質を評価してもらおう。スタンドには見本として靴下が四本吊るしてある。実は靴下はすべて色・形・寸法・肌触りなどまったく同じものだ。しかしこの舞台裏は買物客に伏せておく。

普通に考えるならどの商品も同じ評価になるはずだが、実験では右側の商品ほど高い評価を受けた。さて「最も良質」の靴下が選ばれたところで、その理由を尋ねた。すると、こちらの方が肌触りがいいとか、丈夫そうだななどという、もつともらしい理由は返ってくるが、商品の位置に言及する買物客は皆無だった。選んだ靴下が単に右側にあったからではないかと尋ねても、そんな不合理な理由で選ぶはずがないという返事しか得られない。右側に吊るされた靴下が好まれた原因は不明だが、そこはここでの問題ではない。何らかの情報が無意識に判断に影響する事実だけ確認しておこう。虫の知らせとか勘が働くなどと言うが、これも同様の現象だ。外部情報の影響を受けるが、その過程が意識されないために超自然現象と勘違いするのである。

人間の主体性を吟味する意味で、サブリミナル・パーセプション（いきか 閾下知覚）についても簡単に押さえておこう。一〇〇〇分の何秒という非常に短い時間だけ文字や絵を見せると、被験者は何を見たのかわからないだけでなく、何かを見たという意識さえ抱かない。三人（そのうち二人はサクラAとB）に参加してもらい、非常に短い時間だけ詩を見せるから、詩の作者が男性であるか女性であるかを当てて欲しいと依頼する。しかし実際には詩ではなく、サクラ二人のうちどちらか一人（例えばA）の写真を見せる。その後で、「見せられた詩」（実際にはサクラAの写真しか見ていない）の作者の性別について討論させる。サクラAは詩人が男性に違いないと主張し、サクラBは女性だと答える。タキストスコープ（瞬間露出器）による短時間（一〇〇〇分の四秒）の提示なので、何かを見たという意識さえ生じない。それでも無意識的情報が人間の判断を左右し、サクラAの意見に被験者は影響を受ける。つまり詩だと偽ってサクラAの写真を見せると、Aの言う通り、詩人は男性だと判断する傾向がある（サクラAとBを入れ替えても、詩人の性別を男性と女性を入れ替えても結果は同じ）。

もう一つ例を挙げよう。簡単な図形Aを一〇〇〇分の一秒間だけ被験者に見せ、それを五回繰り返す。投影時間が短いので何かを見たという感覚さえ被験者には生じない。その後、まだ見せていない図形Bを先ほどの図形Aの横に並べて二枚を同時に今度はゆっくりと一秒間投影する。その上で、どちらの図形を前に見たか判断せよと指示する。

当てずっぽうだから、ほとんど当たらない。次に質問内容を少し変えて、二つの図形のうちどちらが好きかと尋ねてみた。すると見た意識さえないのに、初めに見せられた図形Aをより高い確率で選ぶ傾向が現れた。

閨下知覚の効果はかなり長い期間持続する。先の図形認知判断で当たる確率は時間の経過に連れて低下する。しかし好感度判断に関しては、瞬間的に見た図形（見たことさえ意識していない）を好む傾向が一週間経つと逆により強くなる。好き嫌いという素朴な感情さえも主体性の及ばない次元で起きる。意識されない微妙な体験がひとの感情を絶えず左右している。

日常的な判断・行為はたいして無意識に生じる。知らず知らずのうちに意見を変えたり、新たに選んだ意見なのにあたかも初めからそうだったかのように思い込む場合もある。過去を捏造するのは人の常だ。そもそも心理過程は意識に上らない。行動や判断を實際に律する原因と、判断や行動に対して本人が想起する理由との間には大きな溝がある。というよりも無関係な場合が多い。

自らの行動あるいは身体や精神の状態に関しては当然ながら他者よりも本人の方がよく知っている。頭痛を感じる時、それは幻覚にすぎないと医者や周りの者がいくら説明しても意味がない。身体や心の痛みは本人だけに属する現象だ。他人には痛みを想像し心配はできても痛みを直接感ずることはできない。医者にわかるのは、どういう異常症状が生理的次元で発生しているかだけだ。その異常が原因でどのような苦痛を感じるかという経験則に照らし合わせて患者の痛みを想像するに過ぎない。自分の精神および身体の状態に関しては他人よりも本人の方が豊かかつ正確な情報を持つ。しかし心理状態がどのようにして生じるのか、何を原因として喜怒哀楽を覚えるのか、どのような過程を経て判断・意見を採用するのかは本人自身にもわからない。

そうは言っても何らかの合理的理由があって行為・判断を主体的に選び取っている印象を我々は禁じえない。急に催す吐き気のような形で行為や判断の原因が感知されることはない。何故か。「靴下実験」に戻ろう。商品の位置に影響されながらも被験者は選択の「理由」に言及する。影響された事実を調査員に対して繕うために嘘をつくのではない。被験者はその「理由」を誠実に「分析」して答えたのである。自らがとった行動の原因がわからないにもかかわらず、もっともらしい理由が無意識に捏造ねつぞうされる。

これは催眠術が解かれた後に現れる暗示現象に似ている。催眠状態の人に「催眠が解けた後で私が眼鏡に手を触れると、あなたは窓辺に行って窓を開けます」と暗示する。その後、何気ない会話をし、自然な仕草で眼鏡に手をやる。すると被験者は突然立ち上がった窓を開けに行く。なぜ窓を開けたのかと尋ねてみよう。わからないけれど何とな

く急に窓が開けなくなったと答える人はまずいない。ちよつと暑かったとか、知人の声  
が外から聞こえたような気がするなどという合理的理由が持ち出される。自分の行為の  
原因がわからないから、妥当そうな「理由」が常識の中から選ばれて援用される。この  
ように持ち出される「理由」は広義の文化的産物だ。つまり行為や判断の説明は、所属  
社会に流布する世界観の投影にほかならない。

行為・判断が形成される過程は本人にも知ることができない。自らの行為・判断であ  
っても、その原因はあたかも他人のなす行為・判断であるかのごとくに推測する他はな  
い。「理由」がもつともらしく感じられるのは常識の見方に依拠するからだ。自分自身  
で意思決定を行い、その結果として行為を選び取ると我々は信じる。しかし人間は理性  
的動物というよりも、合理化する動物だという方が実状にあっている。

## 出題の意図、評価のポイント、受験生へのメッセージ

### ➤ 描 写

#### ◆出題の意図

- ・モチーフを配置し、いかに画面上に構成することができるかを問いました。
- ・正確に形や色を捉えるという描写力が、どれほど修得できているかを問いました。
- ・硬さ、柔らかさ、張り、透明感等の質感表現ができるかを問いました。

#### ◇評価のポイント

以下の項目に留意し、描写力を総合的に評価しました。

- ・モチーフの構成（モチーフをバランスよく配置することができるか。）
- ・画面の構図（配置したモチーフを効果的に画面に収めることができるか。）
- ・形体の把握（モチーフの形や大きさを正しく描くことができるか。）
- ・量感の把握（モチーフの量感を捉えて描くことができるか。）
- ・空間の把握（モチーフ間の距離や関係を正しく描くことができるか。）
- ・明暗の把握（モチーフの陰影、固有色の明暗を正しく描くことができるか。）
- ・質感の把握（モチーフの素材感を描きわけることができるか。）
- ・画材と技法の理解（鉛筆、紙、消しゴムなどの描画材を活かしているか。）

#### ■受験生へのメッセージ

今回の対象物にはデッサンの基本的な能力が試される大切な要素が含まれています。コーラの瓶は、曲線が多くそのつながりは複雑です。有機的な曲線ですが製品としての規則性も兼ね備えています。また、分厚いガラス、曲げられた金属などの素材感が表現できているかも問われます。紙ふうせんは、自由に形を変えることができるので、個性を出すこともできるでしょう。カラフルですが、鉛筆で描くために色を明るさに置き換える能力が必要になります。また、コーラの瓶とは対照的に軽くて薄い構造が表現できているかもポイントです。手ぬぐいは、コーラや紙ふうせんに対し、明暗のコントラストがソフトで、淡い陰影の部分が多いと思います。折り目や端の詳細を描く必要もありますが、わずかな明暗の変化、手ぬぐい全体の中での変化を、繊細に捉えなければならないでしょう。

そして、個々の対象物の関係性も大切です。同じ平面の上に置いてある様に見えるか。3つの対象物の大きさや明暗の比較。さらに、それぞれの対象物の特徴を活かし、効果的な構図を生み出せているかなどです。

## ➤ 色 彩

### ◆出題の意図

- ・皺を寄せることで偶然生まれる形を観察し、それを活かせる表現力を求めました。
- ・固有色のないモチーフを設定することで、受験生自身の持つ色彩に対する多様な感覚を求めました。
- ・長方形の観察モチーフから、正方形の画面を導く、構成力を求めました。
- ・余白部分を設けることで、基礎的な彩色技術を求めました。

### ◇評価のポイント

- ・モチーフの観察から構成を導き、豊かな色彩表現ができているか。
- ・色の組み合わせを活かして調和と対比を自在に扱うことができているか。
- ・丁寧に彩色することができているか。
- ・出題の条件に対応し、表現できているか。

### ■受験生へのメッセージ

- ・自身の持つ色数を増やしておきましょう。混色にも積極的にチャレンジし、得意な色を増やしておきましょう。
- ・色と色の美しい組み合わせや、それを効果的に見せる構成を多く見つけておきましょう。
- ・日常的に身の回りの色々なものを観察する目を養いましょう。
- ・画材の特性をよく理解しておきましょう。

## ➤ 立 体

### ◆出題の意図

目に見えない空間を造形の一つの要素として捉えてもらうために「空気」と言い換えました。その空気の存在が、ケント紙を用いた形によって表現されたものや、規定のサイズの中から、その枠を超えた空間やスケールを想像させるような表現などを期待しました。実際の形と目に見えない空間の関係の構成を中心に評価するために素材はケント紙のみにしました。

### ◇評価のポイント

- ・空気の存在が感じられる表現ができているか。
- ・目に見えない空気とそれを支える形の間を明快に表現できているか。
- ・解答用材料を効果的に扱うことができているか。
- ・上記の3点を踏まえた上で立体として魅力的な構成が実現できているか。

### ■受験生へのメッセージ

立体の課題では、出題の意図を汲み取り、それを独自の発想で形にしていくことが求められます。そのためには日頃から失敗を恐れず、試行錯誤を積み重ねることが必要です。

一つの小さな発想にはたくさんの可能性が含まれています。そこから形を作り出すには積み重ねた経験に基づいた計画性や制作のプロセスが重要になるでしょう。

また、様々な「もの」や「出来事」を、それを取り巻く空間も含めて、観察するようにしてみてもどうでしょうか。

➤ 小論文

◆出題の意図

設問 1

他者の書いた論理的な文章を読んでその内容を的確に理解する文章読解力、ならびにその内容を要約として再提示する言語表現能力を問いました。

設問 2

問題文に出てくる事例や内容を何らかの仕方で活用しつつ、芸術作品の評価という論点について自身の考えを述べるという設問で、与えられたテーマと素材を活かして自身の考えを表現する応用的な文章表現力を問いました。

◇評価のポイント

設問 1

- ・文章の内容を的確に把握し、単独で読んでも理解しやすい文章にまとめることができているか。

設問 2

- ・論点をずらさず、テーマの本質を自分なりに熟考し、自身の考えを他者に伝わる文章にまとめることができているか。
- ・問題文のなかで紹介された事例等を自身の論述に取り入れるという条件が、自身の考えを伝えるという目的に照らして効果的に用いられているか。
- ・単純ではないテーマを扱うにあたり、説得を持たせる例証や論理展開などの手続きが適切に行われているかどうか。
- ・バランスの取れた論述が行われているかどうか（例えば、具体例の列挙に留まっていたり、あるいは逆に裏付けのない主張のみに終始していたりしないか）。

■受験生へのメッセージ

総合芸術学が研究対象とする作品や創造行為には様々な要素が複雑に関わり、その背景にある考え方も一様ではありません。そのため、日頃から社会の様々な事象に対して幅広く関心を持ち、多様な立場や意見を理解しようとする開かれた態度を培ってもらいたいと思います。そして小論文試験においては、こうした日頃の態度が、与えられたテーマに対する柔軟な応用力と、具体例の豊かな引き出しとして発揮されることを期待しています。時折、課題の内容とそぐわないにも関わらず、必ずこのトピックを使おうと準備してきた（事前に書いて覚えてきた）ことが透けて見える回答を目にしますが、聞かれたこと（課題）に適切に答えること、その場で柔軟かつ真剣にその問題を考えてみる態度や能力の方を重要視しています。また今年の場合は、十分な例証や論理展開などの手続きを適切にし説得力を持たせるための分量が物足りないものが数多くありました。文章全体の構造をどう組み立てるかという意識を持ちつつ、限られた時間で十分に説得力を持たせられる分量の文章を執筆する経験も重ねてみてください。



2020年4月

京都市立芸術大学 事務局 入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

Tel 075-334-2238

Fax 075-334-2281

<http://www.kcua.ac.jp>